

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) Number 8

※動画で用いるスライドはPDFで動画下にリンクで貼り付けています

①地域と学校が繋がる

ー横浜市青葉区・あおばコミュニティ・テラスー (前編)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】 1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください



※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



竹原 和泉
たけはら いずみ

NPO法人まちと学校のみらい 代表理事
東京学芸大学理事、学校法人桐蔭学園評議員ほか



それではご覧ください

学校と地域をつなぎ 地域ならではの学びをつくる

NPO法人まちと学校のみらい
代表理事 竹原和泉



主な活動

■ 学校と地域をむすぶ

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進

■ 地域ならではの学びの場の提供

市ヶ尾ユース・プロジェクト
あおばコミュニティ・テラス

■ ネットワークづくり

市ヶ尾ユースプロジェクト

2018~2020

課題意識

情報収集
分析

まとめ
発表

まちづくり





Aoba Community Terrace

あおばコミュニティ・テラス

横浜市青葉区 青少年の地域活動拠点



場をつくる



あおば未来プロジェクト



@FOCAS 大人の学び場



まちと学校のみらい フォーラム

まちと学校のみらい
フォーラム
2019

人生100年時代を生き抜く
子どもたちに必要な力を伸ばすには

日時: 2019年10月26日 12:30~16:30 (受付: 12:00から)

人生100年時代、いまの子どもたちの多くは2100年を越えてまで生きる可能性が高い、
とされています。そんな時代に生きる子どもたちに必要となってくる力はなんでしょうか。
その力を学校では高められているでしょうか。また、学校任せにせず、家庭や地域、企業、
NPO等ができることも多いと、私たちは考えています。
このフォーラムでは、こうした問題意識のもと、私たちができることを具体的に掘り下げて
考えます。

プレゼンテーション 1

21世紀を創る中高生が育みたい資質・能力
「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ！」をどう見るか？

溝上慎一 学校法人桐蔭学園理事長





まちと学校のみらい
Future Of Community And School



ご関心のある方は是非HPへ <https://aobact.com/>



Home » あおばコミュニティ・テラスとは

あおばコミュニティ・テラスとは

横浜市青葉区 青少年の地域活動拠点 あおばコミュニティ・テラス



チームで学び、考える

これまで市ケ尾ユースプロジェクトに参加して下さった生徒さんの中には、人前で話すことができなかったのにプレゼンテーションが得意になった生徒、リーダーの経験がなかったけれども、チームをリードする立場になり人をまとめ上げる力がついた生徒もいます。



ご視聴有難うございました

—To be continued—

チャンネル登録をお願いします

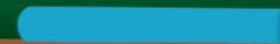
質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等



学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2018年9月に学校法人桐蔭学園へ。2019年同理事長、2020年より現職。京都大学博士（教育学）

日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、文部科学省高等教育局スキームD（座長）、中央教育審議会初等中等教育局臨時委員、総合教育政策局リカレント教育審査委員、大学・高校の外部評価・指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、自己の分権化、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『自己形成の心理学—他者の森を駆け抜けて自己になる』（2008世界思想社、単著）、『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ』（2010有斐閣選書、単著）、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』（2018東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ—「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るか—』（2018東信堂、単著）、『高大接続の本質—「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題—』（2018学事出版、編著）など多数。

<http://smizok.net/>



著作紹介

溝上慎一 (2020). 『社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー—』
(学びと成長の講話シリーズ3) 東信堂

第1章 自己と他者の観点から見る学びと成長

1. 人の発達において他者理解は自己理解に先立つ
3. 自己とは——他者との対峙を通して発現する一個存在
6. 講義—辺倒の授業における学習においてさえ他者は組み込まれている
7. 学習プロセスに他者を組み込む——ペア・グループワークはなぜ求められるのか
9. リフレクション（振り返り）はメタ認知を働かせた言語活動
10. 自己内対話と学習

第3章 エージェンシー

1. OECDの学習者のエージェンシー
3. バンデュラのエージェンシー論—四つの特徴
5. 自己肯定感を高めるのではなく、自己効力感（エージェンシー）を高めよ
6. 内発的動機づけ・自己決定理論——主体的な学習の第I～II層
7. 記憶の情報処理から見た学習—自己関連づけ・自己生成

第4章 教育雑考

2. 自分が生徒の時にはアクティブラーニングをしてこなかった。なぜ今の生徒にここまで求めるのか
3. 社会に生きる個性を育てる——教授パラダイムと学習パラダイムに関連づけて
4. 生徒はアクティブラーニングを熱心におこなうが、教師は成果としての手応えを感じない。そこで起こっていることは？
5. アクティブラーニングと評価

